



# ふくせんレポート

2026

4|6

第24号

1面 令和8年度 理事長挨拶

2面 ふくせん 令和8年度事業計画概要

3面 バリアフリー2026 / 福祉用具専門相談員研究大会

4面 令和7年度ブロック活動実績

※「知識PLUS」「住宅改修事例」は  
休載させていただきます。

令和8年度 理事長挨拶

## 2040年を見据えた福祉用具専門相談員の 専門性向上

2040年を見据え、介護を取り巻く環境は大きく変化しています。福祉用具サービスにおいてもPDCAサイクルの好循環と多職種連携が一層重要となります。住環境整備にもとづく生活支援を担う専門職として、福祉用具専門相談員に求められる専門性向上は必須の課題です。

本会は研修・研究を通じてその専門性向上に取り組み、現場の知見の共有とサービスの質の底上げを図ります。

新年度を迎え、本会岩元理事長より皆様にご挨拶申し上げます。

一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会理事長の岩元でございます。

さて、わが国は現在、いわゆる「2040年問題」に向かう通過点として、大きな社会構造の変化の只中にあります。団塊の世代がすべて後期高齢者となる中で、高齢者人口の増加と生産年齢人口の減少が同時に進行し、介護をはじめとする社会保障制度の持続可能性が問われる時代を迎えています。こうした状況のもと、地域包括ケアシステムの深化と

ともに、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できる環境づくりが一層重要となっています。

介護保険制度においても、福祉用具サービスの提供プロセスは大きく変化しています。近年の制度改正では、福祉用具の安全な利用の促進、モニタリング実施時期の明確化、実施記録の交付の義務化など、PDCAサイクルに基づく質の高いサービス提供が求められるようになりました。福祉用具貸与・販売サービスは、多職種連携のもと生活機能と住環境を調整し、自立支援と介護負担軽減を支える重要な介護基盤として、その役割をますます高めています。

こうした時代において、福祉用具専門相談員に求められるのは、単なる

用具の供給ではなく、利用者の生活を支えるアセスメント、適切な選定、導入後の継続的な活用支援までを一体として担う「生活支援の専門職」としての役割です。福祉用具サービスの「ラストワンマイル」を担う存在として、その専門性と責任はこれまで以上に重要となっています。

本会におきましても、福祉用具専門相談員の資質向上を重要課題と位置付け、研修事業の充実を図るとともに、調査研究事業においては、福祉用具専門相談員指定講習修了後のOJT教育の体系化に取り組みました。本年度は、これらの取り組みをさらに発展させるとともに、福祉用具専門相談員研究大会をはじめとした学びと交流の場を通じて、現場の実践知を広く社会へ発信してまいります。

今後も会員の皆様とともに専門性の向上と組織力の強化を図り、福祉用具を通じて利用者の生活の質の向上に貢献してまいります。引き続き本会活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



岩元 文雄  
(いわもと ふみお)  
本会理事長